

氏 名	津高 慎平
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6798 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Prognostic Significance of Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio in Locally Advanced Non-small-cell Lung Cancer Treated with Trimodality Therapy (集学的治療が行われた局所進行肺癌患者における末梢血好中球/リンパ球比 (NLR)の予後の意義について)
論文審査委員	教授 鵜殿平一郎 教授 山元英崇 准教授 松岡賢市

学位論文内容の要旨

全身性炎症や免疫機能を反映する末梢血好中球/リンパ球比 (Neutrophil-to-lymphocyte ratio, NLR) は、種々の癌腫において予後不良のバイオマーカーであることが示唆されている。一方で肺癌は我が国だけでなく世界の癌関連死の主要な原因であり、肺癌患者の約 20～25%が局所進行の病態を呈している。局所進行肺癌の治療選択肢には集学的治療として導入化学放射線治療後の手術療法があり、当院でも良好な成績を残している。本研究では、局所進行肺癌に対する集学的治療症例の NLR 値が予後に及ぼす影響について評価し、簡便で実臨床にも即対応可能な NLR 値が予後予測のバイオマーカーになりえるかを検討した。本研究での結論として、術後の NLR 高値は集学的治療が行われた局所進行肺癌患者の独立した予後不良の指標であるだけでなく、術後の NLR 値が追加の補助化学療法を行うかどうかを判断するための有望な指標となることを示唆している。

論文審査結果の要旨

末梢血好中球/リンパ球比 (NLR) は様々な癌腫において予後不良マーカーであることが示唆されている。

本研究では、局所進行肺癌に対する NLR 値を修学的治療前、術前、術後、に分けて、その予後との関連を後向きコホート研究 (N=168) において検討した。その結果、術後の NLR 高値は予後不良の独立した指標であること、術後 NLR 高値の場合、adjuvant chemotherapy を導入することで非導入に比べ予後が良い事が明らかとなった。委員からは術後 NLR 高値と残存癌との関係を証明する手段、NLR 値の変動幅、良性腫瘍の術後 NLR 値の変化等に関する質問がなされ、概ね妥当な議論がなされた。

本研究は、局所進行肺癌における術後 NLR 値の意義を新しく見出したものであり、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。